

## 作業所日記

秋松 仁美

夏は閑散期と聞いていましたが、そんなことは一切なく、毎日途切れることなく、忙しくフル稼働でお仕事をしています。中でも昨年からはじめた銘菓ひよこの箱折りが忙しく、今月も大量生産で明後日までに1200個！！と3日で作りあげることもありました。きっとお盆の帰省時に皆さんがお土産として買われるので、需要が倍増するのでしょうか。ひよこの箱作りは主に内藤さん

幸坂さん、花田さん、大久保さん、松村さんで行います。内藤さんは内職、特にひよこの箱折は飛び抜けて早く上手なので、畑班の中から度々抜擢される1人です。ひよこの箱折りの時は朝礼が終わるとすぐに作業を始めてくれるようになりました。ふ



たを折る人と、底を折る人に分かれて黙々と折り、その横で職員が点検をしながらふたを閉じて包みます。5人で折っているのに点検と包むことが追い付かず作業台は箱・箱・箱・箱・・・(-\_-;) といえば昨年もひよこ・ひよこ・ひよこだったなあと思い出しました。(笑)

他にも、掃除用のパルスイクロスという毛足の長いパルプ繊維のクロスを色ごとに並べて袋に入れる作業もありました。その作業は袋にバーコードシールを貼ってから3色のクロスを2枚ずつ6枚入れるのですが、まずバーコードを貼る位置が決まった位置ではなく、「この辺!!」というあいまいな位置に貼ります。そのあいまいな位置がメンバーには難しいのです。いつもはお茶や箱の決まった場所にシールを貼る事が得意な毛利さんは、この辺…というのが苦手なタイプの1人です。シール貼りをしてもらうかどうか悩んだのですが、チャレンジ！最初は、ズれてしまいましたが、慣れてくると思っていた以上に上手に貼ることができるようになりました。その後、その袋にクロスを入れますが、毛足が長かつるつるして滑りやすく入れにくいので、几帳面な人ほど苦戦していました。ずれてしまうのがどうしても気になって仕方がないのでしょうか。どんなに頑張っても絶対にズれてしまうから、気にしないで大丈夫！と声かけするとこだわりをなくして作業をすすめてくれました。職員側のきっと苦手だろうという先入観やメンバーのこだわりを見る事が出来た仕事でもあり、楽しかったです。

4月から新しくメンバーに加わった3人は3ヶ月が経過して、手先が器用な荒木さんは畑班から残



って内職をしてもらうことも多々ありました。初めころは「もう疲れた。何時までやる？」と言っていた斉藤さんは、じゅうたんやさんに何度か行って、今では自分から動けるようになり、先方の方からはとてもよく褒めていただきました。ポスティング用の新聞

やチラシがなかなかうまく折れなくて、手の使い方や折り方を何度も何度も教えられていた大塚さんはきれいに折れるようにもなったり、紅茶の箱入れは間違えることなくきれいに入れられるようになったりと、3人とも最初はできなかったことができるようになり、それぞれが活躍の場を広げるようになりました。時々 OOさんの若い時はこうだった、とか今ではとても想像もつかないメンバーの若かった頃の様子を聞きますが、この新しい3人の「あの時は・・・」と若かりし時を振り返る日がくるのが楽しみだと思いました。